

HELLO PSJ

ダラス留学3年目を迎えて

Institute for Exercise and Environmental Medicine
Presbyterian Hospital of Dallas
The University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas 柴田 茂貴

アメリカ合衆国テキサス州ダラスに来て二年が経ち、三年目を迎えました。私の経験が留学を考えている、あるいは興味を持っている人に少しでもお役に立てばと思い筆を取らせていただきました。

私の滞在している研究所 Institute for Exercise and Environmental Medicine (IEEM) は The University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas の附属研究所で、同じ敷地内には American Heart Association の本部があります。IEEM は長年にわたり NASA の宇宙実験に参加していて、1998 年のニューロラブ宇宙実験では中心的な役割を担い、その時研究所出身の研究者が宇宙飛行士に選ばれました。呼吸、循環、脳循環、抹消循環と温熱生理学、筋肉、自律神経を専門とする 6 人の Faculty がいて、宇宙生理学、運動生理学、環境医学等の分野で多方面からアプローチしながら研究が行われています。

私のボスである Dr. Benjamin D. Levine は IEEM の所長で、現役の循環器内科医でもあり専門は宇宙医学に始まり、運動生理学、高所医学と多岐に渡っています。運動生理学の分野では Living High Training Low のパイオニアとして世界的に有名です。日本に一年間の留学経験があり、家には床の間があり、味噌汁が大好きで、私の英語がダメな時は日本語で話しかけてきます。

私は医学部を卒業した後、2年間の内科総合研修を終え麻酔科に入局しました。2年間の麻酔研修の後、麻酔科の大学院に入学しました。大学院

の4年目に学位のための実験は終わっていたので、学位論文を書きながらアメリカの研究環境を学べればと思い、大学院生の留学補助金を使って留学をすることにしました。

アメリカへの出発当日は、予定していた飛行機が整備不良のため運休となり一日遅れの出発となりましたが、そのため、ただでビジネスクラスに乗ることができ、ラッキーなのかアンラッキーなのかよくわからないスタートでした。ラボでの最初のボスとの話し合いでは、研究をしたいなら三つのことが同時にできなければだめだと言われました。それは、1. 研究計画を立てる、2. 研究を実行する、3. 論文を書くでした。勢いのある口調で、それぞれ今後の予定を報告するようと言われていたので、大急ぎでレポートを作って報告したのを覚えています。その後の話し合いで、日本でやっていた研究の延長で、さらに留学中に学びたいと考えていた心臓コンプライアンスの評価法とも関連があるデータを元に論文を書くことになりました。さらにそのテーマと関連のある進行中の実験に参加しながら、研究計画は時間をかけてゆっくり考えることになりました。これら三つのことは研究者としてはあまりにも当然のことですが、はっきりと区別して考えると今の自分に何が足りないのかが分かり、今でも常にこの三つを区別して考えながら研究を進めています。

留学一年目は学位審査の準備と麻酔専門医の試験、更には結婚式も予定していて、非常に忙しい日々でした。そんな中、ラボの雰囲気が良いこと、

ボスの人間性に惹かれたこと、論文のテーマと進行中の実験とがリンクして面白い結果がでてきたこと等の理由から、今の研究テーマ（動的心血管カップリング）をある程度まとめて論文にするまでは、このラボで研究を続けたい気持ちが強くなってきました。しかし大学院4年目での留学ということもあり二年目以降の日本からのサポートがなく困っていました。そんな時、ボスに今やっているテーマでグラントを申請するように奨められ、もしグラントがだめでも金銭的なサポートはしてくれるとのことで、留学が延長できる運びとなりました。幸運にも留学二年目にNASAに申請したポストクのグラントがアクセプトされて、今やっている研究テーマに集中できる環境が整いました。このグラントは一年に全米で3人しか選ばれない競争率の高いグラントで、日本人で業績も少ない自分には無理だろうと思っていました。グラントアクセプトの第一報は電話だったのですが、私も共同研究者として参加している「妊娠中の自律神経活動の研究」に、妻（その時、妊娠8週）が被験者として参加するために研究所の私の小さなオフィスにいる時にちょうど電話がかかってきました。そのときに二人で喜んだことを今でもはっきりと覚えています。

留学中にうれしくない経験も幾つかしました。一つ目は高速道路で突然車が動かなくなったことです。日本から遊びに来ていた彼女（今の妻）と長距離旅行中で、しかもアメリカ独立記念日であったために修理工場もすべて休みで、近くのホテルで一晩過ごすことになりました。トリプルエー（日本のJAF）に電話して迎えが来るのを待っている時にすごく不安だったのを覚えています。もう一つは空き巣に入られたことです。留学二年目の新婚生活をスタートして2ヶ月ぐらいの頃で、新居の生活の立ち上げも一段落して心に少



研究チームミーティングの後に写真を撮りました。真ん中の椅子に座っているのがDr. Levine、立っている中の真ん中が私です。

し隙があったのでしょうか、夕食に出かけるときに窓のブラインドを閉めずに出かけてしまいました。日本から持ってきていたパソコン3台と、貴金属品、その他お金になりそうなものは全て持って行かれてしまいました。不幸中の幸いで結婚指輪は身につけていたので盗まれないですみました。

現在、留学三年目を迎えてラボにも慣れ、徐々に結果が求められるプレッシャーもありますが、一年目、二年目よりも充実した日々が過ごせていると思います。出産予定日を数日後に控え私生活も更に充実したものになると期待している今日この頃です。

編集部後記：この原稿をいただいたすぐ後の2007年6月10日（日）に、航（こう）君が無事にお生まれになったそうです。読者の皆様がこの留学記を読まれる時には、さらに様々なご経験をなさっており、育児に仕事にてんてこ舞いの毎日なのではないでしょうか。（HPSJ 担当：関野）